

札幌市の事業概要 ～北海道大学病院～

～子どもと医療機関をつなぐコンシェルジュ～

【1】地域概要

- ・自治体担当課：札幌市 保健福祉局 障がい保健福祉部 障がい福祉課
- ・児童数(0～18歳未満)：265,030人(令和2年10月1日現在、住民基本台帳人口)
- ・児童精神科系 医師数：9人 (日本児童青年精神医学会認定医、学会ホームページに掲載されている医師のみ)
- ・児童精神科のある医療機関数：41機関(さっぽろ子どものこころのコンシェルジュ事業に登録している児童精神科医療を扱う医療機関)



【2】拠点病院・機関概要

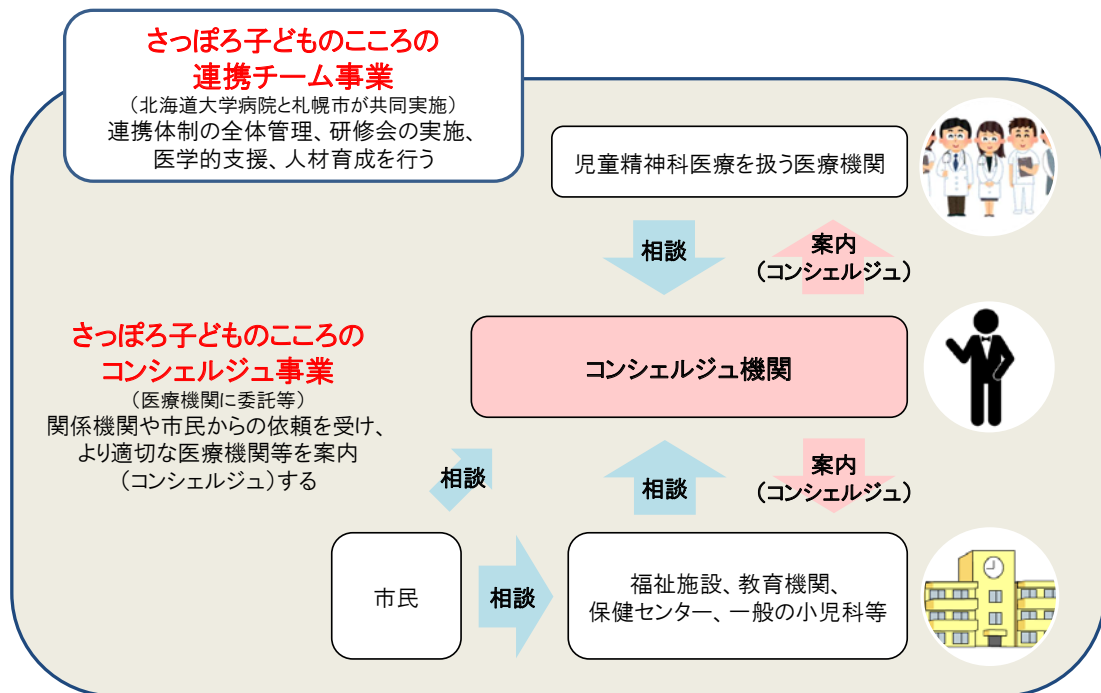
- ・拠点病院機関名：北海道大学病院
- ・事業実施主体：児童思春期精神医学研究部門
- ・事業開始年月：平成27年10月
- ・子どもの心の診療機関マップ実施：札幌市公式ホームページの事業紹介のページ(<https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/kodomosinryonet.html>)に、さっぽろ子どものこころのコンシェルジュ事業の登録医療機関が記載されたパンフレットを掲載
- ・事業協力施設：41機関(さっぽろ子どものこころのコンシェルジュ事業に登録している児童精神科医療を扱う医療機関)

【3】事業実施への経緯

平成27年3月に札幌市児童精神科医療連携体制構築検討会議からいただいた報告書に基づき、平成27年10月から「さっぽろ子どもの心の診療ネットワーク事業」を実施している。
当事業には平成29年度から参加(平成28年度まではオブザーバー参加)。

札幌市の事業概要～北海道大学病院～

【4】事業図



【5】実施事業の概要

次の2つの事業により、児童精神科医療を中心とした関係機関のネットワークを構築・運用し、心の悩みを抱える子どもや発達障がいのある子どもへの支援体制の向上を目指す。

1 さっぽろ子どものこころのコンシェルジュ事業

市内6か所のコンシェルジュ機関が札幌市からの委託等により、関係機関や市民からの依頼を受け、関係機関や本人の希望も考慮しながら、より適切な医療機関等を案内(コンシェルジュ)する。

平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震の際には、震災に関する相談に優先的に対応することとし、特別に診療枠を設け、1週間以内の診察を行った。

2 さっぽろ子どものこころの連携チーム事業

北海道大学病院(児童思春期精神医学研究部門)と札幌市が共同で、連携体制の全体管理、研修会の実施、医学的支援、人材育成を行う。具体的には次のとおり。

- (1) コンシェルジュ機関の代表者による連絡会議を開催する。
- (2) ネットワークを構成する関係機関を対象とした研修会等を実施する。
- (3) ネットワークを構成する関係機関に医学的見地からの助言等を行う。
- (4) 上記1のコンシェルジュ事業を総括し、コンシェルジュ機関の支援を行う。

【6】特徴や特に力を入れている事業内容

さっぽろ子どものこころのコンシェルジュ事業により、地域の子どもたちに対して、より迅速かつ適切な精神科医療を提供しやすくなるようなシステムの構築を目指している。



【7】事業による効果と思われるもの(H23-27年度からの改善点など)

・さっぽろ子どものこころのコンシェルジュ事業は、外来のトリアージ機関として、適切な役割を果たしている。

例：患者に応じた医療機関の紹介によるミスマッチの解消
例：待期間の短い医療機関の紹介

・ネットワークの構築・運用により、地域における児童精神科医療の水準向上に寄与している。

・さっぽろ子どものこころのコンシェルジュ事業に登録している医療機関(ネットワークに参加している医療機関)が増加しており、連携体制がより充実している。

登録医療機関：事業開始当初(平成27年10月) 31機関
→ 現在 41機関



【8】目指す方向性について (今後の予定事業や展望、目標など)

・ネットワークを構成する関係機関を増やし、引き続き、札幌市全体において、心の悩みを抱える子どもや発達障がいのある子どもへの支援体制の向上を目指す。

・引き続き、さっぽろ子どものこころのコンシェルジュ事業の周知広報を行い、より多くの市民に本事業を利用していただく。